

第 8 課 現在完了形

1 現在完了形とは

ドイツ語は、英語と異なり、会話では過去を表すのに現在完了形が用いられます。したがって大変重要な文法事項です。

英語では現在完了形は過去を表すことばとともに用いることはできませんが、ドイツ語にはこのような制限はありません。

次の文を見てください。gestern は「昨日」という過去を示すことばですが、現在完了形の文で用いられています。

Was haben Sie gestern gemacht? (昨日何をしましたか)

Gestern habe ich einen Film gesehen. (昨日、映画を観ました)

2 現在完了形は枠構造

ドイツ語には現在完了形を作る助動詞が二つあります。[sein](#) と [haben](#) です。

また[過去分詞は文末](#)へおかれます。過去分詞の位置は間違えやすい点ですので、しっかり覚えてください。

つまり、[助動詞と過去分詞で枠を作り、その中に他の文成分をはさみ込む](#)わけです。現在完了形は枠構造を作ります。

Ich	habe	im Supermarkt	eingekauft
Er	ist	ins Kino	gegangen
	sein もしくは haben の現在人称変化		過去分詞

少し分かりにくいですね。

不定詞句から完了形を説明してみましょう。

「スーパーで買い物をする」という不定形は im Supermarkt einkaufen です。

これを完了の不定形にすると、im Supermarkt eingekauft haben 「スーパーで買い物をした」になります。

「私」を主語にした文にしてみましょう。

haben は人称変化し、定形の位置におかれ、過去分詞はそのまま文末に残ります。

Ich habe im Supermarkt eingekauft.

ins Kino gehen も次のようになります。

不定形： ins Kino gehen

完了の不定形： ins Kino gegangen sein

現在完了形の文： Ich bin ins Kino gegangen.

3 sein か haben か

sein と haben のどちらが助動詞として使われるかは、その文で使われる動詞によって決定されます。

sein と haben のうちどちらを使うかはあらかじめ決まっており、辞書に書かれています。

たとえば、machen を辞書でひけば、辞書によって異なりますが、発音記号の次に[他][h]とか(完了 haben)という記載があるはずです。

[他]は他動詞であることを示し、[h]は完了形を作るときに haben を助動詞として使うことを意味しているのです。

次に、gehen を見てみましょう。発音記号の次に今度は[自][s]とか(完了 sein)という記載があるはずです。

[自]は自動詞であることを表し、[s]は完了形を作るときに sein を助動詞として使うことを意味しているのです。

二つのうちどちらを使うのかを見分ける簡単な目安のようなものはないのでしょうか。次のように考えてください。数からいえば、haben と完了形を作る動詞の方が sein と完了形を作る動詞よりもはるかに多いのです。

4 格目的語をとる動詞、つまり他動詞は haben と完了形を作ります。

まず、sein と完了形を作る動詞を覚え、それ以外は haben と完了形を作ると考えましょう。

4 sein と完了形を作る動詞

sein と完了形を作る動詞は3種類のグループに分けられます。

a) 場所の移動を表す動詞

gehen (行く), kommen (来る), fahren (<乗り物で>行く), fliegen (<飛行機で>行く), steigen (上る), einsteigen (乗車する), umsteigen (乗り換える)

b) 状態の変化を表す動詞

werden (.....になる), sterben (死ぬ), aufstehen (起きる), einschlafen (眠り込む), wachsen (成長する)

c) **その他**

sein, bleiben, begegnen (会う), gelingen (成功する), geschehen (起こる), passieren (生じる)

5 過去分詞の作り方

ある動詞の過去分詞を知るには、どうしたらいいのでしょうか。

動詞には規則的に過去分詞を作る動詞(規則動詞あるいは**弱変化動詞**)と不規則に作る動詞(**強変化動詞**)、さらには両方の特徴をもった**混合変化動詞**とがあります。

その動詞がどれに属するのか、見分ける必要があります。

見分けるのに一番いい方法は辞書をひくことです。

もしその動詞が強変化動詞、混合変化動詞であれば、発音記号の次に過去基本形と過去分詞が記載されているはずで

もし記載されていなければ、その動詞は弱変化動詞です。

規則変化動詞は規則的に過去分詞を作るので、動詞が規則変化動詞であることが分かれば、過去分詞は分かります。

しかし、弱変化以外の動詞の場合、動詞の過去基本形と過去分詞は暗記する必要があります。

a) **弱変化動詞**

弱変化動詞の過去分詞の作り方は難しくありません。

しかし、弱変化動詞は分離動詞や非分離動詞にも使われるわけで、このような場合には注意が必要です。

順を追って見ていきましょう。

a-1) **弱変化動詞**

動詞の語幹の前に **ge-** をつけ、語幹の最後に **-t** をつけます。

lernen -> **gelernt**

ただし、現在人称変化で、主語が「君たち」を意味する ihr の時に、人称語尾が「-et」になる動詞は、過去分詞を作るときにも、「-et」をつけます。

arbeiten -> **gearbeitet**

a-2) 弱変化する**非分離動詞**

非分離動詞の場合は少々厄介です。基礎動詞の過去分詞から ge- を取り去り、その代わりに前綴りをつけます。

次の例を見てください。

bestellen -> bestellt (stellen - gestellt)

bestellen は非分離動詞です。前綴りは be- 、基礎動詞は stellen で、弱変化動詞です。

stellen の過去分詞は gestellt で、これから ge- を取り去り、前綴り be- をつけた bestellt が bestellen の過去分詞です。

非分離動詞は ge-のつかない過去分詞ができます。

a-3) 弱変化する 分離動詞

分離動詞の場合は難しくありません。基礎動詞の過去分詞の前に前綴りをおき、一語で書けばいいのです。

aufmachen -> aufgemacht(machen -gemacht)

a-4) 語尾が -ieren で終わる動詞

このような動詞は ge- のつかない過去分詞になります。

studieren -> studiert

telefonieren -> telefoniert

b) 強変化動詞

b-1)強変化動詞

lesen - gelesen

gehen - gegangen

sprechen - gesprochen

強変化動詞は弱変化動詞のように規則的に過去分詞を作るわけではありませんが、語幹の母音に注目すると、不定形と過去分詞の幹母音が同じものと、異なるものというように、2種類に分けることができます。

語幹が同じ発音の動詞

不定形	過去分詞
fahren	gefahren
geben	gegeben
sehen	gesehen

kommen	gek o mmen
--------	-----------------------

語幹が異なる発音の動詞

不定形	過去分詞
blei b en	geb l ie b en
ste h en	gest a nde n
f i nde n	gef u nde n
ge h en	geg a nge n

b-2) 強変化する分離動詞

基礎動詞が強変化する分離動詞の過去分詞は、基礎動詞の過去分詞に前綴りをつけ、一語で書きます。

anrufen -> **angerufen** (rufen - gerufen)

b-3) 強変化する非分離動詞

基礎動詞が強変化する非分離動詞の過去分詞は、基礎動詞の過去分詞から ge- を取り去り、その代わりに前綴りをおきます。

verstehen -> verstanden (stehen - gestanden)

verstehen という動詞は前綴りが ver- で、基礎動詞が stehen の非分離動詞です。

stehen の過去分詞は gestanden ですので、ge-の代わりに ver- をおいた verstanden が verstehen の過去分詞となります。

非分離動詞はge-のつかない過去分詞ができます。

c) 混合変化動詞

c-1)

弱変化動詞と強変化動詞の特徴をもった動詞があります。

過去分詞を作るときに、幹母音が変わる点では強変化動詞と共通し、語幹の前に ge- 、語幹の終わりに -t がつくという点で弱変化動詞と共通しています。

こうした動詞は混合変化動詞とよばれます。

kennen - gekannt

不定形	過去分詞
bringen	gebracht
brennen	gebrannt
denken	gedacht
kennen	gekannt
nennen	genannt
wissen	gewusst
rennen	gerannt

c-2) 混合変化する [分離動詞](#)

mitdenken -> mitgedacht (denken - gedacht)

分離動詞の場合は基礎動詞の過去分詞に前綴りをつけ、一語にしたものが過去分詞になります。

「mitdenken」 は前綴り「mit」、基礎動詞は「denken」 です。

「denken」 の過去分詞 「gedacht」 に「mit」 をつけた 「mitgedacht」 が過去分詞です。

c-3) 混合変化する [非分離動詞](#)

verbringen -> verbracht (bringen -gebracht)

非分離動詞の場合は、基礎動詞の過去分詞から ge- を取り、前綴りをつけたものが過去分詞です。

verbringen は前綴りが ver- ,基礎動詞は混合変化する bringen です。

bringen の過去分詞 gebracht から ge- を取り、それに前綴り ver- をつけた verbracht が過去分詞です。

非分離動詞は ge- のつかない過去分詞ができます。

d) sein, haben, werden の過去分詞

不定形	過去分詞
sein	gewesen
haben	gehabt
werden	geworden

6 現在完了形の人称変化

1) haben の現在人称変化 + 過去分詞 (文末)

	haben の現在人称変化		過去分詞
Ich	habe	eine Stunde	gewartet
Du	hast	eine Stunde	gewartet
Er	hat	eine Stunde	gewartet
Wir	haben	eine Stunde	gewartet
Ihr	habt	eine Stunde	gewartet
Sie	haben	eine Stunde	gewartet

2) sein の現在人称変化 + 過去分詞 (文末)

	sein の現在人称変化		過去分詞
Ich	bin	mit der U-Bahn	gefahren
Du	bist	mit der U-Bahn	gefahren
Er	ist	mit der U-Bahn	gefahren
Wir	sind	mit der U-Bahn	gefahren

Ihr	seid	mit der U-Bahn	gefahren
Sie	sind	mit der U-Bahn	gefahren